被災地方言会話集

ー　宮 城 県 気 仙 沼 市　ー

＜自由会話＞

自由会話の概要

収録地点　　宮城県気仙沼市

収録日時　　2012（平成 24）年 8 月 1 日

収録場所　　宮城県気仙沼市塚沢　旧月立中学校

話題　　【震災のときのこと】

話者

A	女	1941（昭和 16）年	（収録時 71 歳）	［Bの知人］
B	男	1937（昭和 12）年	（収録時 75 歳）	［Aの知人］

話者出身地

A　気仙沼市波路上（ハジカミ）

B　気仙沼市塚沢（ツカザワ）

【震災のときのこと】

話し手

A　女　1941（昭和 16）年　（収録時 71 歳）
B　男　1937（昭和 12）年　（収録時 75 歳）

001A：アンドギモ　サムクテネー、ジエータイノ　ヒトダチネー、（B　ウン）アノ
あの時も　寒くてね、　自衛隊の　人たちねー、　（B　うん）あの

プルプルテー（B　ホンダホンダホンダ）ホントーニ、ンデー　アノー　アノヒノ
プルプルって（B　ほんとほんとほんと）本当に、　そして　あの　あの日の

フジンカイノ　ヒドダジ　アッタカイ　ミソシルドガ（A　ウン）ダシテネー、
婦人会の　人たち　温かい　味噌汁とか　（A　うん）出してねー、

オイシガッターッテ　アドデ　キーダノネー。
美味しかったって　後で　聞いたのねー。

002B：ウン　ンダネ。　オラホサモ　コ　コゴサ　ショーボーヒャカ゜　キテ
うん　そうだね。　俺の方にも　×　ここに　消防車が　来て

（A　ウンウン）トマッタガラ　ミンナ　ア　アノ　タギダススステ
（A　うんうん）止まったから　みんな　×　あの　炊き出しして

カシェダンダ。　（A　ソーダネー）スタラ　ソノ　アッタカイ　オツユネ
食べさせたんだ。（A　そうだねー）そしたら　その　温かい　御汁ね

（A　ウーンウン）クイダインダナ。（A　ソーナンダネー）ウーン　オニキ゜リ
（A　うーんうん）食べたいんだな。（A　そうなんだねー）うーん　おにぎり

モラッタッテ　アリカ゜ダグネンダ。（A　ソーソーソー　アッタカイ）
もらっても　ありがたくないんだ。（A　そうそうそう　温かい）

オツユダケ　ホスインダ。
御汁だけ　欲しいんだ。

気仙沼市 自由会話

003Ａ：ンダッテネー、　アノ　ジエタイノヒト　ユッテダッテー、（Ｂ　ウン）アノ
そうだってねえ、あの　自衛隊の人　　言ってたって、　（Ｂ　うん）あの

ミソシル　ウマガッタヤッテ。　ウン（Ｂ　ンダベ）　　ンダガラ　　アノー
味噌汁　　美味しかったなって。うん（Ｂ　そうだろう）そうだから　あの

サイカ゜イデネ　イッツモ　オモウノ。ソノ　タベモノネ。（Ｂ　ウン）
災害でね　　いつも　　思うの。　その　食べ物ね。　（Ｂ　うん）

サイカ゜イ　ミンナ　ソノタンビ　チカ゜ウカ゜スト。（Ｂ　ウン）シテ
災害［は］　みんな　その度　　違うでしょ。　　（Ｂ　うん）そして

ジダイカ゜カワッテッカラ　　ワスレタコロニ｛笑｝　クルンダヨネ。｛笑｝
時代が　　変わっているから　忘れた頃に　　｛笑｝　来るんだよね。｛笑｝

（Ｂ　ワスレダゴロニ　クルネー　ウン）ソー、ソーソーソー。
（Ｂ　忘れた頃に　　来るねえ　うん）そう、そうそうそう。

ソスットッサ　ホントニ　アレ　ナニカ゜　イガッテユード　　クイモノダネー。
そうするとさ　本当に　　あれ　何が　　良いかって言うと　食べ物だねえ。

（Ｂ　ウン）アッタカイ　クイモノネー。
（Ｂ　うん）温かい　　食べ物ねえ。

004Ｂ：マ　　カラダオ　アッタガグスル　ホーホーモ（Ａ　ソー）ダイズダ。
まあ　体を　　暖かくする　　方法も　　（Ａ　そう）大事だ。

（Ａ　ソー）　ウン。
（Ａ　そう）　うん。

005Ａ：ホントニネ、ンダガラ　アノー　ワダシモ　マズ　コレガラ
本当にね、　だから　　あの　　私も　　まず　これから

ベンキョシテク゜ノワ　ミズワ　カナラズ　モッテオグゴド。
勉強していくのは　　水は　　必ず　　持っておくこと。

ソレガラ　コ　　カンブツルイカ　ミソ　ショーユ　（B　ウン）タヤサナイデ
それから　こう　乾物類か　　味噌　醤油［を］（B　うん）絶やさないで

カッテオッカナッテ　｛笑｝イッツモ　コノコ゜ロ　オモウノネ、（B　ウーン）
買っておこうかなって｛笑｝いつも　この頃　思うのね、（B　うーん）

アレサエ　アレバネ、シオトネ。
あれさえ　あればね、塩とね。

006Ｂ：ウン。ナンボ　カネ　アッタッテ　モノワ　ネーンダ。
うん。どれだけ　金　あったって　物は　ないんだ。

007Ａ：ナイカラ。｛笑｝ソーソーソー。
ないから。｛笑｝そうそうそう。

008Ｂ：カネデワナイナ。（A　ウン）
金ではないな。（A　うん）

009Ａ：デ　アダシモ　カンブツルイデ　ケッコ　シノイダンダネーー。（B　ウーン）
で　私も　乾物類で　結構　凌いだんだねーー。（B　うーん）

アノ　ヒジキノ　ホシタノトガ（B　ウン）アト　キリボシダイコントカ
あの　ひじきの　干したのとか（B　うん）あと　切干大根とか

（B　ハーー）、デ　アノ　ニンジントカモー　コー　イッパイ　モラッタドギ
（B　はああ）、で　あの　人参とかも　こう　いっぱい　もらった時

アノ　オヒサマニ　ホシテ　カリカリニ　シテオイデ、　ワズカナ　ミズデネ、
あの　お日様に　干して　かりかりに　しておいて、　わずかな　水でね、

（B　ウン）モドルガラー、（B　ウン　ウーン）ソレデー　マコ゜ダジ
（B　うん）戻るから、（B　うん　うーん）それで　孫たち［が］

コンナノ　ハジメデ　クッタッテ　ユッタケントネ、（A　ンダネー）
こんなの　初めて　食べたって　言ったけどね、（A　そうだね）

カンブツモ　ダイジダネー　ウドントカネ、（B　ウンウンウン）ウドンモネ、
乾物も　　大事だね　　うどんとかね、（B　うんうんうん）うどんもね、

アノ　グラグラグラ　ニナクテモ　イーノッサ。　チョット　ニダッタラ
あの　ぐらぐらぐら　煮なくても　いいのさ。　　ちょっと　煮立ったら

アド　オモセバ　イーノネ、（B　アーーー）タベラレンノ。
あと　蒸せば　　いいのね、（B　あーーー）食べられるの。

マー　マズーイー（B　ウン）ッテエバ　　マズイケンド　クエナェワゲデ
まあ　まずい　　（B　うん）っていえば　まずいけど　　食えないわけで

ナイガラネ。（B　ウンウン）　デ　ベンキョシタネーー。
ないからね。（B　うんうん）　で　勉強したねえ。

（B　ウーン）クイモノモネー。
（B　うーん）食べ物もね。

010B：クイモノワ　ナイベス　　イズバン（A　ウン）コマッタノ　　ミズダッタン。
食べ物は　　ないだろうし　一番　　（A　うん）困ったの［は］　水だったの。

（A　ソーソーソー）サイショ、（A　ソー）サッ　ミーズー
（A　そうそうそう）最初、　　（A　そう）さあ　水

ネーッテ　イワレデモネ、　サッ　クルマノ　ガソリンカ゜　ナインダ。
無いって　言われてもね、　さあ　車の　　ガソリンが　　無いんだ。

（A　ア　ガソリンカ゜　ナインネ。｛笑｝　ンダオンネー）
（A　あ　ガソリンが　　ないのね。｛笑｝　そうだもんねー）

ンダガラ　モッテガレネーンダイヤ。（A　ソーソー）
だから　　持って行けないんだよ。　（A　そうそう）

011A：シテ　　アダシモネー　アノ　チチオヤカ゜、　ナグナッタ　チチオヤカ゜ネ、
そして　私もね　　あの　父親が、　　亡くなった　父親がね、

気仙沼市 自由会話

クルマッツノ　ハンブ　イッツモ｛コーヒーを飲む音｝ハンブンマデ　アブラ
車というの　×××　いつも　｛コーヒーを飲む音｝半分まで　油

イレトゲッテ　イワレダノ。（B　ウン）デ　ソレ　イッツモ　マモッテンノネ。
入れておけって　言われたの。（B　うん）で　それ　いつも　守っているのね。

（B　ウン）ダガ　ケッコー　ハシレタノサ　ハンブン　アッタカ。
（B　うん）だから　結構　走れたのさ　半分　あったから。

（B　アー　ホンダー　イガッタナー）ンデモ　ワダシ　チョード　マエノヒ
（B　あー　それなら　よかったなー）それでも　私　ちょうど　前の日

シズカ゜ワサ、アノー　ギリノ　イモートサン　イルノデ　ナンダガ
志津川に、　あのー　義理の　妹さん　居るので　何だか

シャネゲド　ヨーアッテ　コーコッツカラ　イッテ、ア　キー
知らないけど　用あって　来い来いと言うから　行って、×　××

ジューイチニチノ　フィー　ダーイッテ　イワレダンネ、
十一日の　日　いらっしゃいって　言われたのね、

ンダゲッド　ジューイチニジー　アダシモ　ツゴー　ワルイガラーッテ
そうだけど　十一日［は］　私も　都合　悪いからって

トーカニ　イッタノッサ。　デ　ジューイチニチニ　イッダラ
十日に　行ったのさ。　で　十一日に　行ったら

カエッテ　コレネガッタオンネ。　（B　ウーン）デー　ソノー　トーグサ
帰って　来られなかったもんね。（B　うーん）で　その　遠くに

イク゜ガラッテ　マンタンニ　イレデアッタノ。（B　ウン）アブラネ。
行くからって　満タンに　入れてあったの。（B　うん）油ね。

（B　ウン）ソシテ　カエリモ　ンジャー　トオモッテ　マダ　マンタンニ
（B　うん）そして　帰りも　それじゃあ　と思って　また　満タンに

ツカッタブン　イレダノネ。（B　ウン）ソエ、（B　アーーー）ナカ
使った分　　入れたのね。（B　うん）それ、（B　あーーー）××

ナンカ　ムシノシラセダガ　オヤカ゜　マモッテケダノガナ（B　アーー）
なにか　虫の報せだか　　親が　　守ってくれたのかな（B　あーー）

トオモッタリ｛笑｝シテネ。
と思ったり　｛笑｝してね。

012B：オラ　マイニズ　センエン　エレレバ　イード　オモッデッガラネ。｛笑｝
俺は　毎日　　千円（分）入れれば　いいと　思ってるからね。　｛笑｝

センエンスカ（A　ホンダガラ）エレネンダ。
千円しか　　（A　そうだから）入れないんだ。

013A：アドー　ウサ　エサ　カエッデキデ　カネッコ　ハタイデ　ア　アノー
あと　　××　家に　帰ってきて　　お金　　はたいて　×　あのー

タスカッタヤーッテイッタネー。
助かったよって言ったね。

014B：アー　ンダナー。（A　ウン）ソレデ　タスカッタネー。
あー　そうだな。（A　うん）それで　助かったねー。

015A：ソレ　ヤッパリ　コー　トショリーノヒトダジカ゜　キー　ワガイ　ヒトタチサ
それ　やっぱり　こう　年寄りの人たちが　　××　若い　　人たちに

キカセンノモ　ダイジデナェベガ。　（B　ウンウン）　アダシ　ソノ、
聞かせるのも　大事でないだろうか。（B　うんうん）　私　　その、

ムガスカラ　コ　　トショリヒトダジノ〔1〕　ハナシ　キーデデ、
昔から　　こう　年寄りの人たちの　　話　　聞いてて、

タメンナッタゴド　イッパイ　アルネ、ソノ　カンブツモ。
為になったこと　　いっぱい　あるね、その　乾物も。

（B　アー　ナルホド）　ホレガラ　ミソ　ショーユ　キラスナドカネ。
（B　あー　なるほど）　それから　味噌　醤油　　切らすなとかね。

016Ｂ：ウン。　オラドゴワ　ツナミ　コネァガラネ。
うん。　俺の所は　津波　来ないからね。

017Ａ：コネガラ　アンシン　シテッケントー。
来ないから　安心　してるけれど。

018Ｂ：ウン　ソーユー　アノー　オモイカ゜　ナインダ。
うん　そういう　あのー　思いが　無いんだ。

019Ａ：アーーーー　（B　ウン）　ナンデモ　アッカラネ。
あーーーー　（B　うん）　なんでも　あるからね。

020Ｂ：ナンデモ　アルンダ。
なんでも　あるんだ。

021Ａ：ハダゲ　ホッケシテワ　ナニアルシネー。
畑　掘り返しては　なんでもあるしねー。

022Ｂ：ウン、ンダガラ　クルマデ　ハ　モッテイキ゜ダグテモ
うん、それだから　車で　×　持って行きたくても

イカ゜レネーンダイヤ。（A　ンダネ）　アブラカ゜〔2〕　ナクテ。
行けないんだよ。　（A　そうだね）　油が　無くて。

（A　ソーダオンネーーー）　ウーン。
（A　そうだもんねーーー）　うーん。

023Ａ：ゲンダイノ　ソノ　キキ　ダネ。アブラトカ。（B　ウン）ムカシ
現代の　その　危機　だね。油とか。　（B　うん）昔

アルイダンダケントネ。（B　ソーソー）クルマ　ネド
歩いたんだけどね。　（B　そうそう）車　無いと

ウコ゜ケネッツハナシモ　オガシーガッタンダケド｛笑｝アタシサ、
動けないって話も　　おかしかったんだけど　｛笑｝私さ、

ナニ　アブラアブラッテッテー、アルゲバイッチャト　オモッタノンサー。
なに　油油って言って、　　歩けばいいさと　　思ったのさ。

024Ｂ：ウン。　マー　ミンナ　アルイダゴド　アルイダネー。
うん。　まあ　みんな　歩いたこと　　歩いたねー。

025Ａ：マー　アルイダネー。（Ｂ　ウン）ウンウン。
まあ　歩いたねー。　（Ｂ　うん）うんうん。

026Ｂ：スデ　ムガスド　イ　イマワ　ツカ゜ウガラネ（Ａ　ウーン）ムガスワ　アノー
そして　昔と　×　今は　違うからね　（Ａ　うーん）昔は　あのー

ヤマノ　モクザイデ　ｲエー　タデダデショ。（Ａ　ハイ）ソ　ツナミ　クット
山の　木材で　家　建てたでしょ。（Ａ　はい）×　津波　来ると

ナカ゜サレルト、（Ａ　ウン）ソノー　ナカ゜サレタ　アノー　ガレキデ　イエオ
流されると、　（Ａ　うん）その　流された　あのー　がれきで　家を

タデタンダ。ストー　アドモ　コノ　コーイー　ガレキオ　ゼンブ　フロダドガ
建てたんだ。すると　あとも　この　こういう　がれきを　全部　風呂だとか

ネンリョーシニ〔3〕　ツカッダガラネ。（Ａ　アーー）ホンダガラー　ハマモ
燃料費に　使ったからね。　（Ａ　あーー）そうだから　浜も

ナンモ　キレーニ　ナッタノサ。（Ａ　ア　ナルホド）ウン。（Ａ　イマ）
何も　きれいに　なったのさ。（Ａ　あ　なるほど）うん。（Ａ　今）

ヨコ゜レッゴド　ネーンダ。（Ａ　ハイハイ）　イマ　デンコ　モラッテ
汚れること　無いんだ。（Ａ　はいはい）　今　お金　もらって

ヤッテッカラネ。ウーン　カダズケルチモ　ナニモ　ヤルチモ　ネーンダワ。
やってるからね。うーん　片づける気も　何も　やる気も　ないんだよ。

027Ａ：ンー　ンダネーー。　（Ｂ　ンー）ソシテ　アダシモ　コー
　　んー　そうだねーー。（Ｂ　んー）そして　私も　　こう

　　オモッタンダケントネ、ムガシワ　アノ　ソー　タトエバ　カジデー
　　思ったんだけどね、　昔は　　あの　そう　例えば　火事で

　　アノー　イエ　ヤゲダッテユード　カナラズ　ダレガノ　ｲエサ（Ｂ　ウン）
　　あの　家　焼けたっていうと　必ず　誰かの　家に　（Ｂ　うん）

　　オセワ　ナッタガスト。（Ｂ　ソーソー）　シテ　ミンナ　ナガヨグ
　　御世話［に］なったでしょ。（Ｂ　そうそう）　そして　みんな　仲良く

　　クラシテネー、（Ｂ　ウン　サワキ゜〔4〕　ネーンダ）　サワキ゜
　　暮らしてね、　（Ｂ　うん　騒動［は］　ないんだ）　騒動

　　ナガッタケント　コンカイ　ソーデモ　ナガッタミタイダネー。
　　なかったけど　今回　そうでも　なかったみたいだねー。

028Ｂ：コンカイワ　アッダネー。　ミッカデ　オワリダ。
　　今回は　あったねー。　三日で　終わりだ。

029Ａ：ンダネー。（Ｂ　ウン）ナンダガ　ズイブン　サワキ゜カ゜。アレ　ナンダイ、
　　そうだね。（Ｂ　うん）なんだか　随分　騒動が。　あれ　なんだい、

　　キズナッテ　ユーワリニ。｛笑｝ミンナ　ハナシ　キグドネー、
　　絆って　言う割に。　｛笑｝みんな［に］話　聞くとねー、

　　（Ｂ　ワガママ）エラ　エラレナガッダー。（Ｂ　ウン）エラレダホーモ
　　（Ｂ　わがまま）××　居られなかった。　（Ｂ　うん）居られた方も

　　タイヘンダー。（Ｂ　ソーソー　イラレダホーカ゜　タイヘンダ）アト　アレ
　　大変だ。　（Ｂ　そうそう　居られた方が　大変だ）　あと　あれ

　　イズノマニ　コンナ　ヨノナガン　ナッタノガナーッテオモッタネー。
　　いつのまに　こんな　世の中に　なったのかなーって思ったねー。

030Ｂ：ウン　ミンナ　ホダッタ。
うん　みんな　そうだ。

031Ａ：ヤッパリ　ゲンダイナンダイガネー。（Ｂ　ゲンダイガナー）カクカゾグノー、
やっぱり　現代なんだろうかねー。　（Ｂ　現代かなー）　核家族の、

032Ｂ：オレンドゴノ　オ　オイッコサー　キタ　オヨメサンノー　オフクロカ゜
俺のとこの　×　甥っ子に　来た　お嫁さんの　おふくろが

キタノサ。（Ａ　ウン）ソシテー　ナンボニズ　イダベナー。
来たのさ。（Ａ　うん）そして　何日　居ただろうなー。

ミッカモ　イダラ　ケンカシテ　カエッタ。（Ａ　ウーン）ウン。
三日も　居たら　けんかして　帰った。　（Ａ　うーん）うん。

033Ａ：コンナ　ダイジナジキデネー。
こんな　大事な時期でねー。

034Ｂ：ウーン。　ココ　ヤッセ〔5〕ダガラ　ベツニ　ナンツーゴダ　ネーンダ。
うーん。　ここ［は］八瀬だから　別に　なんてことは　ないんだ。

ホンダケントモ　ヤッパリ　ダメナンダナー。
そうだけれども　やっぱり　だめなんだなー。

035Ａ：ハーーー。　ガマンカ゜　タリナインダイガネー。
はーーー。　我慢が　足りないんだろうかね。

036Ｂ：ガマンカ゜　タンネーンダ。
我慢が　足りないんだ。

037Ａ：オモイヤリモ　タンネンデネベガ。
思いやりも　足りないんじゃないだろうか。

038Ｂ：ウン。ズブンノー　アノー　イシオ　トーソート　ステル。
うん。自分の　あのー　意思を　通そうと　してる。

気仙沼市 自由会話

039Ａ：アー　カンシャノ　キモジモ　タンネガッタカモネー。
あー　感謝の　　気持ちも　足りなかったかもねー。

040Ｂ：ウーン　ンダノ　　ネーンダネー。
うーん　そういうの　無いんだねー。

041Ａ：ンダガラ　ボランティアデ　コー　キタヒトタチワネー　ナニシロ　モー
だから　ボランティアで　こう　来た人たちはねー　なにしろ　もう

ムチュー　ダッタネー。ヤッテモラッテネー。
夢中　　だったねー。やってもらってねー。

042Ｂ：アノ　ボランティアッテイエバー　サイコーノ　カンシャダ。
あの　ボランティアっていえば　最高の　感謝だ。

043Ａ：ソーダヨネー。
そうだよねー。

044Ｂ：ウーン。アリャ　ココニ　イデサゲァ　イッテ、　アノ　ハエカ゜エッペ　イデ
うーん。あれは　ここに　居てさえ　行って、　あの　ハエが　いっぱい　いて

クサイドゴッサー　（Ａ　ウン）ヤッタヤズワ　イネーンダ。
臭い所［を］さあ　（Ａ　うん）やったやつは　いないんだ。

（Ａ　ホントニネー）　シテ　ミンナ　モー　ココノ　ヒドタチ　ヤッタンダヨ。
（Ａ　ほんとにねー）　そして　みんな　もう　ここの　人たち　やったんだよ。

（Ａ　ソーダヨネー）　ドブワネー。〔6〕
（Ａ　そうだよねー）　どぶはねー。

045Ａ：アノ　スバラシサワネ（Ｂ　ウン）ミナラウベキダネー。
あの　素晴らしさはね（Ｂ　うん）見習うべきだねー。

046Ｂ：ンダネー。　オレノ　オドッ　ココサ　トマッデダカラネー、（Ａ　ハイハイ）
そうだねー。おれの　×××　ここに　泊まってたからねー、（Ａ　はいはい）

ソノー　ヤサイガナンカ（A　ア）ケダケントモネー。
そのー　野菜かなんか　（A　あ）やったけどもねー。

047A：アーーー。ミンナネー　シンパイシテ　キテケダンダモンネーーー。
あーーー。みんなねー　心配して　　来てくれたんだもんねーーー。

048B：ンダネー。　オギナワガラ　アノー　ホッカイドーマデ　キタガラ　ミナ。
そうだねー。沖縄から　　あのー　北海道まで　　来たから　皆。

049A：ハイ　ホッカイドノ　カタモネ、　アタシタチ　ココサ　キデ
はい　北海道の　　方もね、　　私たち　　ここに　来て

チョット　シリアイニ　ナッタノネ、（B　ウン）　ホンートニネ
ちょっと　知り合いに　なったのね、（B　うん）　本当にね

ミナサン　　アタマ　サカ゜ルネー。
みなさん［には］頭　　下がるねー。

050B：アタマ　サカ゜ルー。シテ　　ジューイズカ゜ズニーー　アノ　エキデンタイカイ
頭　　下がる。　　そして　十一月に　　あの　駅伝大会

ヤッタノッサ。（A　ハイ）ソシタラ　ソノボランティアノ　ヒト　オキナワガラ
やったのさ。　（A　はい）そしたら　そのボランティアの　人　　沖縄から

ホッカイドーマデ　キテ、（A　ウン）　ゼンブ　トローヒーガラ
北海道まで　来て、　　（A　うん）　全部　　トロフィーから

ショーシンガラ　イーッパイ　ナラベテッサー（A　ウン）ウーーン。
賞品から　　いっぱい　　並べてさー　　（A　うん）うーーん。

051A：ヤッセノ　アノ　コーレーノ（B　ウン）マラソンタイカイネ。（B　ソーソー）
八瀬の　　あの　恒例の　　（B　うん）マラソン大会ね。　　（B　そうそう）

アーー　スコ゜ガッタネー。
あーー　すごかったねー。

気仙沼市 自由会話

052Ｂ：ソレデ　オレ　ハズメダモンダガラー、（Ａ　ウン）ウーン、
それで　俺　始めたものだからー、（Ａ　うん）うーん、

ホントニ　カンシャダ、ソレモ。
本当に　感謝だ、　それも。

053Ａ：ホントダネーーーー。（Ｂ　ウン）
本当だねーーーー。（Ｂ　うん）

054Ｂ：マー　アノ　クサイドゴ　ハタライデケデ、（Ａ　ソーソーソー）ソレガラ
まー　あの　臭い所　働いてくれて、（Ａ　そうそうそう）それから

ショーシン　ダシテガラニー（Ａ　ソー）ミンナ　イッショニ　ハスッタンダ
賞品　出したうえに（Ａ　そう）みんな　一緒に　走ったんだ

ソノヒトダツモ。（Ａ　ウン）
その人たちも。（Ａ　うん）

055Ａ：チョード　キョネンノ　イマゴロネー、（Ｂ　ウン）ヤッパリ　アズクテ
ちょうど　去年の　今頃ねー、（Ｂ　うん）やっぱり　暑くて

ハエガ゜　デデー（Ｂ　アズグ　ハイハイ）ネー。
ハエが　出て（Ｂ　×××　はいはい）ねー。

056Ｂ：ソンデモ　アノー　ツナミーガ゜　オギダドキワ　サムガッタガラ、
それでも　あのー　津波が　起きた時は　寒かったから、

（Ａ　ソーソーソー）ソノ　デンセンビョーニモ　ナニモ　ナンネノサ。
（Ａ　そうそうそう）その　伝染病にも　なにも　ならないのさ。

イガッタノサ。（Ａ　ナンネガッタゲントネーー）ウン。（Ａ　ウン　デモ）
良かったのさ。（Ａ　ならなかったけどねーー）うん。（Ａ　うん　でも）

ナズダッダラ　タイヘンダ。（Ａ　ンダネーー）ウン　タスカッタ　ヒトタツモ
夏だったら　大変だ。（Ａ　そうだねーー）うん　助かった　人たちも

カタッパスガラ　ヨワッテイク゛。
片っぱしから　　弱っていく。

057Ａ：ソー　ミンナ　ノリゴエダネー。（Ｂ　ノリゴエダ）　ヤッパリ
そう　みんな　乗り越えたねー。（Ｂ　乗り越えた）　やっぱり

ボランティアサンノ　オカケ゛ダネー。（Ｂ　ンダンダ）　スコ゛イネー。
ボランティアさんの　おかげだねー。　（Ｂ　そうだそうだ）すごいねー。

（Ｂ　スコ゛イ）ンートニ、　アノー　ドゴダガノ　オバンツァカ゛
（Ｂ　すごい）　本当に、　あのー　どごかの　おばあさんが

ボランティアッテ　ナンデッサッテ　ホラ　ユッタッテ。　モットモ
ボランティアって　なんですかって　ほら　言ったって。　最も

ワガンネノサネー。　（Ｂ　ワガンネノワガンネノ）
わからないのさねー。（Ｂ　わからないのわからないの）

デ　ボランティアッテ　タダデー　カセーデケル　ヒトダヨッテタゲ
で　ボランティアって　ただで　働いてくれる　人だよって言ったら

ナニスー　タダデスー　｛コーヒーを飲む音｝ッテ　ホラ　イッタッテ。
何です　ただです［か］｛コーヒーを飲む音｝って　ほら　言ったって。

（Ｂ　ウン）デ　クーモノ　ナゾシテンダベッテ。　タッケ
（Ｂ　うん）で　食べるもの　どうしてるんだろうって。そうしたら

ジブンデ　カッテキテ　クーンダガラッテ。（Ｂ　ソーソー）　タケ
自分で　買ってきて　食べるんだって。　（Ｂ　そうそう）　そしたら

ナニス　ソンナゴド　アンノスカッテ　オバンツァン　イッタッテネ、
なんです　そんなこと　あるんですかって　おばあさん　言ったってね、

モー　キュージュースキ゛タ　オバンツァンガネー、（Ｂ　ウンウン）
もう　九十［歳］過ぎた　おばあさんがねー、　（Ｂ　うんうん）

気仙沼市 自由会話

ナミアムダブナミアムダブッテ　テー　アワセダッテッサー。（B　ウーン）
南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏って　手を　合わせたってさ。　（B　うーん）

宮城県気仙沼市方言会話集（自由会話）注記

〔１〕トショリヒトダジ
「年寄りの人たち」の意味であるが、「の」にあたる部分が聞き取れない。

〔２〕アブラ
自動車のガソリンのこと。

〔３〕ネンリョーシニ
「燃料費に」と解釈される。文脈上は「燃料に」でよいところであるが、発話者は「燃料相当のものとして」という意味を表したかったらしい。

〔４〕サワキ゜
「騒ぎ」であるが、ここは騒動を意味する。

〔５〕ヤッセ
気仙沼市八瀬地区。

〔６〕アリャ　ココニ　イデサゲァ　イッテ、以下の文脈
地元の人たちでさえ、泥掻きにはなかなか行けなかったのに、ここに滞在していたボランティアたちが、劣悪な環境でも積極的に活動してくれたという趣旨。

宮城県気仙沼市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者　小林　　隆（東北大学大学院文学研究科教授）
崔　　柳美（東北大学大学院文学研究科博士後期課程３年）
三沢由季子（東北大学文学部３年）

文字化担当者　小林　　隆（東北大学大学院文学研究科教授）
川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
三沢由季子（東北大学文学部３年）